

登山月報



不忘山よりの南蔵王縦走路



2016年 みんなで山を考えよう!
8月11日 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

スポーツクライミング第12回ボルダリングジャパンカップ2017報告	1
平成28年度 大山冰雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	3
第100回 Mountain World	5
「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう—	6
2017年山岳スキー競技世界選手権大会報告	7
第11回山岳スキー競技日本選手権大会のお知らせ	9
平成28年度全国理事長会議報告	10
追悼 私の師 齊藤一男さんとお別れ	11
新刊紹介	12
JMA、寄贈図書、編集後記	12

スポーツクライミング 第12回ボルダリングジャパンカップ2017 報告

1月28日、29日スポーツの聖地と言われている代々木第二体育館において開催されました「スポーツクライミング第12回ボルダリングジャパンカップ2017(以下、12BJC)」は、多くの観戦者に来場いただき今までにない盛り上がりで成功裏に終えることができました。

観戦者 1月28日(予選) 800人
1月29日(準決勝・決勝) 1641人

スポーツクライミングが、2020年東京オリンピックの追加競技として採用が決まり、12BJCでは、大会の位置づけ(日本チャンピオンの決定、代表選考)を明確にするため、優先権を持たない選手の予選(昨年12月深谷開催)を行いました。予選通過は、男女それぞれ30名とし、BJC本戦は女子59名、男子89名の参加となりました。

女子の予選は、森秋彩、小武芽生が各グループの1位通過。本命の野中生萌、加島智子が3位、野口啓代が5位とつづく。準決勝では、全課題完登の野口が1位、森が2位通過。その差は、アテンプト1の差。野口の貫禄を漂わせる落ち着いた登りとは対照的に、身長差を感じさせない登りは会場を大いに盛り上がらせた。結果、決勝では6人中3人の中学生が進出、野口、野中の世界クラス対中学生といった図式となった。

2課題目まで一撃完登する野口を見てさすがこのまま優勝かと思われたが、3課題目に伊藤がその流れを変える。大きく被った壁にあるボルリュームから傾斜の緩んだ出口にあるポケットをつかんで抜けていくルート(photo 決勝選手紹介▶参照)。伊藤が3アテンプトで抜けるが、野口が失敗。伊藤が一步リードする形となる。第4課題は、全員がボーナスをとることができないほどの難しい課題。伊藤がそのまま逃げ切り優勝となった。



決勝選手紹介

→ : 女子第3課題 → : 男子第4課題

決勝順位	一課題		二課題		三課題		四課題	
	T	B	T	B	T	B	T	B
1 伊藤ふたば	2	1	2	1	3	3	×	×
2 野口 啓代	1	1	1	1	×	2	×	×
3 野中 生萌	4	3	×	7	4	4	×	×
4 森 秋彩	1	1	7	7	×	×	×	×
5 工藤 花	×	6	×	×	×	6	×	×
6 小武 芽生	×	5	×	×	×	×	×	×



一方男子は、昨年の世界選手権を制した榑崎智亜が準決勝で敗退し、藤井快が2連覇をとげた。今まで、毎年優勝者が変わるジャパンカップに新たな歴史を築いた。男子決勝は、グレード1段~2段(セッターより)が続き、一課題目は4人が完登したが、2課題、3課題と完登が出ず。一課題目を一撃完登した渡部が一步リード。どうなるかと見守る中、4課題目(photo 決勝選手紹介▶参照)にドラマが起きた。上部に並ぶボルリュームからカチホールド(ボーナス)を取り、そのボルリュームに乗り込んで最終ホールドを取りに行く課題。これもかなり厳しい感じがしたが藤井が1撃で落とす。他の選手はボーナスまで行くが完登はできず、藤井の優勝が決まる。

今回の決勝進出した選手の完登、アテンプトの偏差値を算出、グラフfigure1(女子)、figure2(男子)に表す。女子は、野口、野中は安定しているが、全体的に予選から決勝において変動が大きい。まだ、若手の場合、限界としているグレードが未知数であり能力の発揮が

決勝順位	一課題		二課題		三課題		四課題	
	T	B	T	B	T	B	T	B
1 藤井 快	2	2	×	2	×	3	1	1
2 渡部 桂太	1	1	×	1	×	×	×	×
3 波田 悠貴	3	2	×	5	×	×	×	1
4 杉本 怜	5	2	×	×	×	×	×	3
5 榑崎 明智	×	2	×	3	×	9	×	2
6 堀 創	×	×	×	×	×	×	×	1



安定してないためと感じる。ただ、すぐそこまで来ていることは確かだ。男子は、藤井が2連覇したがグラフを見るとレベルは紙一重。決勝のようになかなか厳しい課題でないと差をつけるのは難しいかを感じる。

いずれにしても、

来年のBJCが楽しみである。

【運営面】

1月29日、大会が終わり時計は21:00を回っていた。まだ、数名の記者がメディアルームで記事を書いている。閉館を告げ、退出を促す。このような光景は、昨年のボルダリングワールドカップにおいてもなかった。東京、代々木という地の利もあると思うが、メディアの今までにない反響は、この大会の注目の高さを改めて感じた。以下、メディア(ペン、フォト、テレビ)の来場



数である。

1月28日(予選) 合計 81

1月29日(準決勝・決勝) 合計 117

今後、彼らにスポーツライミングを広める十分な情報と機会の提供を徹底していかなければならない。人材の確保、体制の見直しが直前の取り組みと考える。

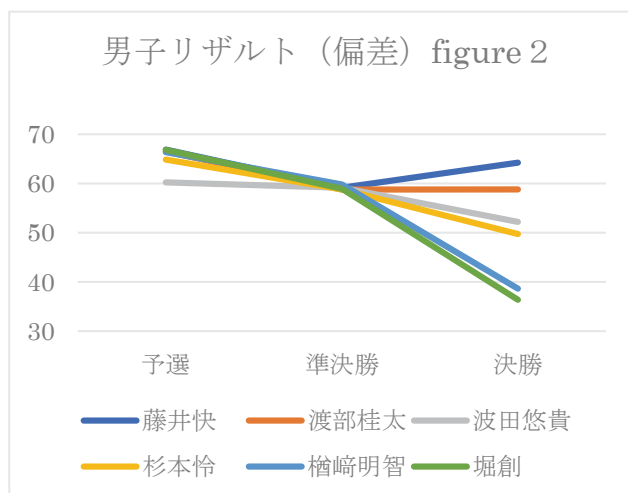
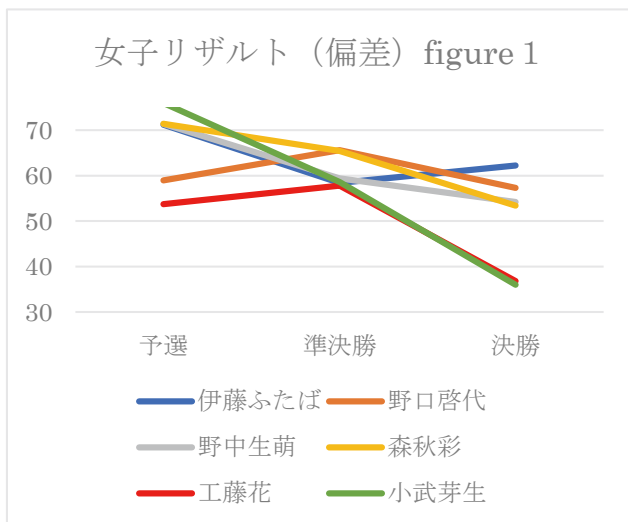
今回は、代々木第二体育館が会場となった。1964年東京オリンピックのバスケットボール会場だ。吊屋根構造の円錐形で重厚感のある素晴らしい建築物だ。昨年よりロケハンを重ねるたびにその様相に負けない大会にしたいという思いが強くなった。ただ大会が終わるといつも同じ問題や課題が上がってくる。

会場設営、受付、会場管理、演出でのトラブルは大体いつも同じだ。なかなか改善できていない。それらを大局的に観ると、システムの不十分さ、人材の不足である。2020年のオリンピックを考え、関東連合として人材を集めたいと考える。

そして、IFSCが掲げる大会目的を実現すべく、3月に控えているリード日本選手権をはじめとする今後の大会で取り組んでいきたい。

- a) 公平だが挑戦しがいのある競技フィールド。
- b) 高水準な競技経験をもたらす施設とサービス。
- c) 大会を通じて地域と主催者に利益を供すること。
- d) 感動的で良質な観戦体験の提供。
- e) メディアにクライミングを広める機会を提供。
- f) スポンサーに製品やサービスを広める機会提供。

最後に、この大会に関わった皆様方のご支援、ご協力により無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。
(実行委員長 村岡正己)



平成28年度 大山氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告 (平成29年2月18日(土)～19日(日))

今回は研修17名、A級主任検定4名、上級指導員養成講習2名、講師5名、鳥取県スタッフ3名の計31名での開催となった。参加者は広島県からの9名を筆頭に、徳島県、香川県、石川県、山口県、宮崎県、長崎県と中国、九州、四国、北陸ブロックから広く参加をいただいた。

昨年は雪が少なかった上に、初日は雨にたたられたが、今年は一週間前の大雪の後で雪不足の心配も無く、2日間とも好天に恵まれ、充実した研修を実施できた。今回もスタンディングアックスビレー等の検証を含め、雪上支点の作り方、滑落停止、耐風姿勢などの雪上技術全般の講習を実施した。

以下に参加者の代表の感想を掲載します。

(指導委員会 瀧本)



大山氷雪技術研修会感想文

広島県岳連 広島山岳会 川本 雄暉

所属山岳会以外での雪上技術に関する講習は初めて参加でした。雪上技術の技術も時とともに少しずつ変化しており現在、推奨とされている技術を習得することができたので良い経験になりました。

どのようにその技術を使用するかだけでなく、なぜその技術を使用するのか理屈を含め理解することができました。

1日目に机上講習・スタンディングアックスビレー、実技講習として支点の構築(強度確認)、スタンディングアックスビレーを適当な斜面にて実施しました。スタンディングアックスビレーではこれまでロープを山側の肩に通し、谷側を脇に通して使用していたが、その技術は現在、推奨していないことを知ることができました。

支点の作成ではブッシュを使用しての作成。細い木を束ね実際に埋めて支点の強度を確認した。実際に40

～50cmくらいの深さに埋め10人以上で荷重を加えたが支点は崩壊しませんでした。水分を比較的含んでいる雪質であったので雪同士の結合力が良く強度が新雪などの軟雪よりかなり増していました。

これまで実験的なことを行う機会がそれほど多くなかったので良い経験となりました。スノーボードなどの支点においても検証して強度を把握しておきたいと思います。実際に使用するにあたり山では様々なシチュエーションが考えられるため山行のなかで見たと経験値を積み技術を確実にものにしていこうと思います。

また、参加者は九州、中国、四国、関西、北陸地方をはじめ様々な地域の方々であったため交流ができ良い経験となりました。各々、異なるバックグラウンドで山に取り組んできたため様々な所属山岳会の取り組み方・雰囲気など感じ取ることができました。

2日目は前日のスタンディングアックスビレーの復習を行い再確認しました。所属山岳会で伝達をする際は実際に使用するシチュエーションを想定して斜面で実施する予定です。やり方を覚えるだけでなくどのような状況下で使用するかイメージをすることが重要であるので様々な経験を積んでいく中で経験値を蓄積していきたいと思います。

支点作成の延長として土嚢袋を使用して支点作成を行いました。前日と同様に強度確認を実施しましたが強度はかなり強く、土嚢袋が手早くセットでき、雪上での懸垂支点には最も適しているように感じました。その日はその他、滑落停止、耐風姿勢を実施しました。

今後も定期的開催される講習を受講し主流の技術を学んでいきたい。そして、山行のなかでその技術を使用し経験値を蓄積し技術の引き出しを増やしていきたいと思います。



第100回 Mountain World

生涯功労賞はジェフ・ロウに

池田常道

第25回ピオレドールの生涯功労賞がアメリカのジェフ・ロウ(66)に決まった。米ワイオミング州のティートン山群を本拠とする、グレッグ、マイク、ジェフのロウ3兄弟は登攀用具開発のフロントランナーで、従兄弟にあたるジョージ・ロウ三世も含めて多くの登攀に成功、北米登攀界の一大勢力として知られている。

ジェフ・ロウは1953年9月、ユタ州オグデンに生まれた。4歳でスキーを始め、6歳で父に連れられてクライミングを体験。早くも7歳のときにグランド・ティートンに登っている。アイス・クライミングを始めたのもやはりティートンで、15歳のときだった。

71年にはユタ州のザイオンでムーンライト・バットレスを初登。75年には、カナディアン・ロッキーのキッチンナー北東壁グランド・セントラル・クーロワール(1200m、V、A I 4、M 6)も初登攀した。77年にはジョージ・ロウ、マイケル・ケネディとアラスカのハンターとフォラカーを狙ったが、不覚にもハンター北壁で墜落、足首を骨折してリタイアを余儀なくされた。

ジェフは翌年も大魚を逸した。ジョージとケネディにベテランのジム・ドニニを加えた4人で、未踏のラトックI峰(7145m)北稜をカプセル・スタイルで試みたが、頂上直下150mで断念。いったん雪洞に帰ってから体調が悪化し、登攀26日目にして下降せざるを得なかった。頂上そのものは翌年、ピアフォ氷河側から挑んだ日本隊によって初登頂されたが、この北稜は以後38年間にわたって登られていない。

翌79年、トム・フロスト率いる登山隊で解禁されたばかりのアマ・ダブラムに向かったジェフは、南西稜から頂上に立った8日後、南壁を単独で初登攀した。80年にはケネディと組んでスキャン・カンリ(7544m)西壁と南バットレスをアルパイン・スタイルで試みたが、得るところなく終わった。

そして82年12月、ジェフはアイス・クライミングの能力を駆使してネパールのクワンデ(6187m)北壁に成功した。デーヴィッド・ブリーシャーズと行ったこの登攀(フンゴー・フェース)は新境地を拓くもの

だった。氷壁というよりスラブを覆ったベルグラをたどるもの(VII、W I 6、V S)で、分厚くしっかりした氷よりもデリケートな対象へと興味が移って行った証左だった。85年にはコロラドでバードブレイン・ブルヴァード(W I 5、M 6+)を登っている。

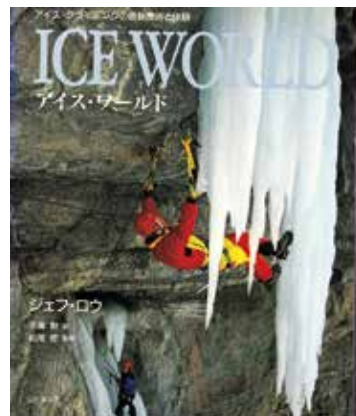
86年にカンテガ北西稜に登った後には、ヌプツェ東峰の南東バットレスを2回にわたって試みた。のちロシアのパバノフが固定ロープを使って登るが、2500mのルートに、マーク・トゥワイトと果敢なアルパイン・スタイルで挑んだものだった。

91年2月にはアイガー北壁のハーリン・ルートと日本ダイレクトには含まれた空白部を単独で直上、メタノイアと名付けた。ギリシャ語で「悔い改め」を意味するこの言葉は、当時公私共に人生のどん底にあったジェフにとって復活のきっかけとなった。A 4のエイドを含むこの登攀はボルトを1本も使うことなく行われた。ずっと再登されずにきたが、昨年12月にトーマス・フーバーら3人がようやく第2登を果たした。

それから3年後の4月、コロラドのヴェイルで、ミックス・クライミングの新境地を拓くオクトパシー(M 8)を初登攀。96年には、1ピッチの氷柱からアルパイン・ルートまで、およそ氷に関する技術・用具・実践を解説した『ICE WORLD』を著した(写真参照)。

2000年代初めに神経系の運動障害を発症、現在は車椅子生活を余儀なくされている。しかし彼は、かつて岩や氷の課題に対峙したとき同様、この進行性の難病に立ち向かっている。

なお、これまでこの功労賞を受けたのは以下の人々である。ヴァルテル・ボナッティ(2009年)、ラインホルト・メスナー(10年)、ダグ・スコット(11年)、ロベール・パラゴ(12年)、クルト・ディームベルガー(13年)、ジョン・ロスケリー(14年)、クリス・ボニントン(15年)、ヴォイチェフ・クルティカ(16年)。



オクトパシー(M8)に登るジェフ・ロウ
1996年に著した著書(日本語版は98年)の表紙となった

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

宮城県・蔵王連峰 不忘山

宮城の山の中でもっとも標高が高く、知名度も高いのが蔵王連峰です。奥羽山脈の南部、宮城・山形の県境に位置し、「国分ける山」として歌や短歌に詠まれてきました。観光道路蔵王エコーラインが通り、最高峰の熊野岳(1841 m)や爆裂火口湖の「お釜」、冬の樹氷が全国的にも知られています。

南北30キロメートルほどにもなる、この蔵王連峰の南端に、地元岳人に親しまれている秀峰不忘山(1705 m)があります。蔵王エコーラインの刈田峠から、この不忘山までコースは、南蔵王縦走コースと呼ばれますが、最後のフィナーレを飾る峰で、高山植物の豊かさは群を抜いています。

この不忘山をホームグラウンドにしているのが、白石市に拠点を置く宮城県山岳連盟・白峰会です。今年度創立50周年を迎え、この不忘山で記念登山を実施しました。平成28年の6月19日に行われたこのイベントは、全6コースから山頂を目指す集中登山で、会員・一般参加者を含めると130人以上が集まった大きなイベントとなりました。

最も人気のコースは、先に挙げた南蔵王縦走コースで約60人が参加しました。4つの班に分かれて、展望のよい稜線歩きと、途中にある「芝草平」の高層湿原、豊富な高山植物を堪能しました。

水引入道1656 m(変わった名前ですがれっきとしたピークです)を越え、先の縦走路に合流した後不忘山を循環するコースには約10名。高低差のある長丁場のコースということで、健脚が集まりました。

七ヶ宿町の硯石登山口から山頂を目指し、循環するコースにも約10名。登山者の少ない女人好みのコース



不忘山よりの南蔵王縦走路

ですが、標高差1,000 mを登ります。

宮城蔵王白石スキー場からゆっくり往復するコースには、小さな子どもを含む家族連れなど約30人が参加しました。一番楽なコースとはいえ、標高差800 m以上を登る本格的な登山です。

以上の一般コース4ルート以外にも、本格的な沢登りのコースも2ルート設定しました。東面の権現沢から山頂を目指すコースと、西面の大若沢から山頂を目指すコースです。いずれも、沢登りのルートとしての魅力はそれほどでもありませんが、不忘山頂を目指すバリエーションルートとなります。いずれも募集定員である10名ほどが集まりました。

6月中旬は、不忘山が高山植物により最も華やぐ時期です。快晴とまではいきませんでしたでしたが、この時期にしては恵まれた天気の中、それぞれのコースから山頂を目指しました。コース状況や参加者の体力もあり、到着時間はまちまちでしたが、全員が山頂を踏むことができました。

参加者みんなで「ふるさとの山」のすばらしさを実感できた一日でした。

(宮城県山岳連盟・白峰会 佐藤芳樹)



権現沢・大若沢源頭からの不忘山

山小屋滞在を楽しみつつ、山上湖や雄大なパノラマを満喫しながら歩く

12名様
限定企画

エスプラナーデ山小屋縦走
トレッキング 9日間

発着地 東京 旅行代金 ¥618,000~¥642,000

出発日 7/9(日)・7/16(日)・7/23(日)・7/30(日)・8/6(日)

※燃油サーチャージ(2017年2月20日現在)は不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE ツアーズ サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

2017年山岳スキー競技世界選手権大会報告

2017年2月23日から3月2日の日程で、山岳スキー競技世界選手権が北イタリアのドロミテアルプス山麓トランスカバロ山域（ヴェニスから北西約100 km）で開催された。25ヶ国から選手が参加、日本からは、藤川健（北海道）、松澤幸靖（長野）、松本大（長野）、加藤淳一・加藤倫子夫妻（山梨）、國吉正紀（岐阜）、星野緑（群馬）の7選手と監督として笹生が参加した。

レースは、個人戦 チーム戦、スプリント、バーチカル、それにリレーの5種目で戦われた。前半の個人戦、チーム戦は山域西面のアルパゴ地域の山中にコースが設定され、森を抜け森林限界へあがりナイフリッジの稜線では、足にアイゼンに、ハーネスに短いザイル2本と環付きカラビナ2のピアフェラータキットを付けフィックスロープ沿いに走るという過酷なレースで、標高差1500 mから2000 mを2時間前後で登り滑降するダイナミックなレースであった。冬山登山経験のない選手には難しい、ヨーロッパならではのコース設計である。

霧で視界がよくない悪天候の中で行われた個人戦レースに、日本からは男子、藤川・松澤・松本・加藤淳一の4選手。女子は、星野・加藤倫子の2選手が挑んだが、男子69人完走中藤川57位、松澤61位、松本63位。女子は星野のみ、42位（最下位）で完走。加藤倫子選手は途中でスキーが流れレース棄権となった。

一転して好天となったチーム戦は男子、藤川・松澤組と 加藤・國吉組の2組が参戦、藤川組のみ完走。成績は完走28組中22位。世界の壁の厚さを感じさせた展開であった。それでも松澤はスキーを落したり、板の破損事故に見舞われながらも、完走を果たしたのは成果といえる。女子、星野、加藤組は途中タイムアウトとなり完走は果たせなかったが、星野選手にとっては初の国際大会で全くの初体験の個人戦で完走。貴重な



経験となった。

日本以外の東アジア2ヶ国のうち中国は2戦不参加。韓国選手は個人戦成年男子1名男子ジュニア1の参加。ともに最下位であった。ほかにアジアからはイランが3選手（男子1女子2）を派遣していた。ワールドカップを開催したばかりのトルコからは参加がなかった。

スプリント、バーチカル、それにリレーはトランスカバロ山域の東面にあるピアンカバロスキー場に場所を移して行われた。

雨の中での決行となったスプリントレースは 予選では選手が20秒ごとにスタートしタイムを計測。TOP 30人が準々決勝に進みさらに準決勝12人、決勝6人で争われた。日本選手は加藤（淳）48位、藤川51位、松澤54位、國吉56位でともに準々決勝には進めなかった（完走56名）。女子は加藤倫子選手が37位（40人完走）であった

下りがなく登るだけのレースであるバーチカルは好天に恵まれよいレースとなった。

TOP は予想通りスペインの人気選手キリアンで標高差560 mを一気に24分06秒で駆け上がった。驚異的なパワーである。日本選手の結果は加藤（淳）31分09秒で55位、藤川61位、松澤62位であった（完走66名）。松本選手は体調不良で棄権した。滑りがない分スカイランニング出身の松本選手に有利かと期待していたが、欠場は残念であった。それでも本人は、世界最高峰の山岳スキーレースとスカイランニングでも活躍するキリアン選手のレースを目の当たりにしたことは、大きな刺激となったようだ。

最終日恒例のリレーでは日本の結果は事前の予想通り最下位であったが、アジアから唯一の参加で存在感を示した。全種目の国別総合ランキングでは、日本は



25ヶ国中21位であった。

中国は、今回選手3（男子1女子2）と役員3人で後半戦から合流、韓国は成年男子1名男子ジュニア1名役員2名の参加だが、両国とも、選手の実力は、中国女子選手1名を除き日本以上に国際レースレベルに達していない。

中国は2017年12月にワールドカップ戦を開催することを決定。すでにISMF会長も北京入りして会場の視察をした。これは、中国登山協会が2022年北京冬季オリンピックでの正式種目化の可能性を見据えて、この競技に力を入れる決断をしたことによると思われる。実際の競技人口はほぼゼロであるにも関わらず、CMAとして国際大会開催に力を入れ始めたのが興味深い。中国とイランでは審判養成講座も開かれている。

オリンピックといえば2020年にスイスのローザンヌを会場に開催される予定のジュニアオリンピックにおいて、この競技が正式種目化されることがほぼ確実視されており、2022年北京冬季オリンピックでの正式種目化も可能性ももう一つ高くなったと言えるのではないか。

今回の大会で感じたのは、ロシアとアメリカが力をつけ各種目で上位に食い込む健闘を見せたことが印象的であった。アメリカは、実に25人の選手を派遣、それに選手家族など観戦応援団が20名もついてくる大代表団であった。アメリカ選手団の団長によると近年、急激に山岳スキーレースの人气が高まり、多くのレースが各地で開催され競技人口が一気に増え、今回の大量派遣につながったとことであった。確か2年前の大会では10人以下の選手団だったと記憶している。北米での人気沸騰が日本にも波及するか見ものである。ロシアは女子ジュニアに強力な選手1名が現れ、メダルを獲得、国別ランキングで上位に食い込んだ。

この競技の各種目のキャラクターを言い表すなら個人戦、チーム戦は 冬季トレイルランニングレース。スプリント、バーチカル、リレーは人工壁を使ったス

ポーツクライミングに似ていると言えるのではないかと。トレランが隆盛を極めるなか山岳スキーレースの競技人口も徐々にではあるが増え続けるであろう。

今回日本チームは、藤川、松澤のベテラン2名に加え、トレランで実績を残す松本大と加藤淳一選手に、自転車競技出身の國吉正紀選手。女子はベテラン加藤倫子に加え、スキー教師でトレランでも実績のある星野緑選手が参加してくれたが、新しいメンバーの加入は大変よかった。松本選手はスカイランニングで国際レースでも実績を残すと同時に、国内ではスカイランニング団体やレース運営もしている。また加藤夫妻は富士吉田でトレイルランニングと山岳スキー競技の用品店と講習で実績があるので、今後の競技振興に強力な助っ人となることが期待される。松澤・藤川両選手も、各自の関連するスキー場でミニレースを開催するなど、日本選手権、世界選手権に出たことから刺激を受けて競技普及に尽力してくれている。星野選手も小さなお子さんを家族に託してまで参加してくれ、この経験を生かして地元群馬で競技仲間を増やしたいと語ってくれた。

日本選手にとってはこれまでの大会同様、世界との力の差を見せつけられる結果であったが、競技の歴史の浅さ、競技人口の少なさ、強化計画の無さなど課題は明らかで、それぞれの課題に地道に取り組む以外ないであろう。ただ自費でも世界選手権に参加したいという選手が7名もおり、韓国や他の国際レースに出たいという熱意ある選手が少なからずいることは大きな励みである。

この競技の国内統括団体として日山協として今後この競技に対してどう取り組むか考えたい。北海道や長野の代表選手経験者も自分たちの取り組みを日山協がどのように支えてくれるか見守っている。

（日本代表選手団監督・笹生博夫）



第11回山岳スキー競技 日本選手権大会のお知らせ

日時：2017年4月1日(土)午後：受付、夕方より開会式・交流イベント

4月2日(日)午前：競技、午後：表彰式

場所：長野県北安曇郡小谷村 梅池高原から天狗原にかけての斜面。コース図参照。

競技コース：水平距離約16.5km、総標高差約1800mの国際ルールに即したコースを設定。ただし当日の天候や積雪状況により変更される可能性があります。

競技カテゴリー：

1. 国際規格競技

成年(男子・女子)、少年(男子・女子)個人
国際山岳スキー競技連盟競技ルールに沿って設定されたコースで実施。女子・少年男女は、カテゴリー2と同じショートコース。

2. 成年男子ショートコース(市民レースカテゴリー)

成年男子、個人
カテゴリー1のコースの一部を短縮して、体力に自信のない方でも楽しめる形にしたカテゴリー、水平距離約11km、総標高差1200m

3. チャレンジ

成年(男子・女子)、少年(男子・女子)、個人
競技を体験してみたいという方対象のミニレースカ

テゴリー、水平距離約6km、総標高差420m

※少年とは2017年4月1日現在で満20歳未満の選手
参加資格：日本山岳協会に2016年度選手登録している者(※今大会は2016年登録で行ないます)

参加費：カテゴリー1：12,000円、カテゴリー2：10,000円、カテゴリー3：6,000円

※すべて選手登録費2,000円と大会当日ゴンドラ代金を含みます。

2017年4月1日現在で18歳以下の方はカテゴリーに関わらず5,000円(選手登録済の方は4,000円)

参加申込方法：所定の申込用紙2枚(別紙)に必要事項をご記入の上、下記まで郵送、FAXまたは電子メールにて送付ください。開催要項・申込用紙は、以下のホームページからダウンロードできます。

<http://www.jma-sangaku.or.jp/>

<http://www.jsmc.jp>

問合せ・申込先：日本山岳協会

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内

TEL：03-3481-2396 FAX：03-3481-2395

E-mail:info@jma-sangaku.or.jp

大会参加費は事前に郵便振替にてお支払い下さい。

郵便振替口座番号：00110-5-546693

加入者名：(公社)日本山岳協会

申込み締め切り：2017年3月24日(金)

2017年競技大会コース案



シール登行 スキー滑降
つば足登行



平成28年度全国理事長会議報告

日時：平成29年2月12日(日) 10:30～15:30

場所：渋谷・フォーラムエイト773会議室

1. 開 会

(1) 会長挨拶

「代表者会議」から「全国理事長会議」に名称変更され、また、皆様の意見も聞きたいが、限られた時間であり、かなり苦慮している。

1期2年の任期もまもなく終わる。いろんな事をよく知っている皆さんが中心になって日山協の運営に参加してくればかなり良くなります。皆さんが日山協です。我々ではない。本日は宜しくお願ひします。

(2) 出席者確認のあと、報告に入った。

同席者として、瀬田工業有限会社の瀬田順一、瀬田裕志両氏が出席。

2. 報 告

2-1. 一般報告

- ①平成29年度事業方針及び予算編成方針案について、日程案について翌日メールで送ることになった。
- ②組織変更について、スポーツクライミング部が出来た。今までにあった各委員会でスポーツクライミングではないものをどのようにするか、山岳スキーやアイスクライムなど、具体的にどの部、委員会が担当するか、決定する必要がある。
- ③ジュニア登山について今後どのように計画していくか、アクションプランを明確にして、実行する事。少年少女登山教室の岳連補助についても、金額(50,000円)が半端である。しがらみを外してほしい。海外登山奨励金についてもハードルを低くして、岳連を援助してほしい。
- ④無任所理事について、今後どのように参画してもらうか、検討する必要がある。
- ⑤広告代理店は博報堂が入っているが、協賛金は使途範囲が定まっている。それでは使いたい事業に使えない場合がある。日山協独自で使える資金を確保するためにグローバルパートナーが必要である。可能になれば、会費を減額することにも繋がるし、岳連救済にもつなげることも出来る。
- ⑥山岳については普及があり、スポーツクライミングについては、メダル獲得と記述されている。スポーツクライミングにも普及と言う文言を入れてほしい。岳連の方をスポーツクライミングにも目を向けさせるためにも必要である。スポーツクライミングのイベントにも補助がほしい。

2-2. 保険、特に包括損害賠償保険について

事業主体が日山協、岳連であれば包括の対象になっていることを確認した。但し、それは日山協の名簿に掲載されている人たち、及び指導員資格を持っている人たちが対象とのこと。年度の始めに事業を連絡してもらった方がよい。つまりどの事業が対象かの判断材料となる。

基本的に講習会に出席された方に万が一事故が発生した時に主催者としての賠償責任を負う必要があるが、日山協が包括で賠償責任保険をかけている。出席された方が特定できて、その名簿を日山協に提出してもらう。どんな事故が発生したかについて、講習会が特定されて出席者が特定しないといけない。今の契約は一年ごとであるが、対象者の名簿を出してもらう。都道府県に関しても同じで出席者の名簿がないと対応できない。人数については、予定でもよい、との代理店の回答があったが、参加者の特定と言う認識はなかった、という意見があり、保険代理店が調査する。

2-3. 質問と回答

- ・大阪府山岳連盟からの質問と回答
- ・和歌山県山岳連盟からの質問と回答
- ・群馬県からの質問事項と回答
- ・近畿地区山岳連盟からの質問と回答
- ・日本ユース選手権リード競技開催日程延期について

2-4. 全国理事長会議の位置付けについて

- ①これは以前から皆さんの意見を聞きましようという事で、評議員会の代わりに行っている。間違いない。ただ、名称が「代表者会議」になって曖昧になったので「全国理事長会議」に改めた。質問についての解答も出た。これは大きな進歩だ。ただ、ある特定の岳連だけが質問が多い。質問事項は1岳連1～2に絞った方がよい。その運営を考えた方がよい。
- ②全国理事長会議は、その通りでこのまま進めてほしい。理事会は別の役割がある。決定機関ではないが、指導機関として、過去の経緯を認識して続けてほしい。
- ③ブロック代表理事が理事会の結果を持ち帰ればよいが、まだそこまでいっていない。従って年一度のこの会議は必要。
- ④決定権がないということ始めて知った。執行部の方で提案して、この会議について検討してほしい。
- ⑤「全国理事長会議」に理事も出た方がよいかについては、理事会で話をしてほしい。

追悼 私の師 齊藤一男さんとお別れ

太田忠行

山学同志会の生みの親で、東京都山岳連盟会長、日本山岳協会会長、日本山岳文化学会の初代会長を務めた齊藤一男さんが本(2017)年2月24日亡くなられた。享年93歳。

齊藤さんは少年のころから単独で山野を歩き、軍隊生活を経験した後、朝霧山岳会に入会。入会後は南アルプスや奥秩父、丹沢の山々を踏破し、谷川岳などの岩場に挑んでいたが、やがて朝霧山岳会の活動に飽き足らず会を辞して1955年山学同志会を設立する。

山学同志会は誰もがご存じのとおり厳しい指導と訓練で知られる先鋭的なアルピニスト集団である。自らも積雪期谷川岳一ノ倉沢二ノ沢本谷の登攀を遂げるなど率先躬行して世界的アルピニスト小西政継らの会員を育てた。会員は1967年冬期マッターホルン(4477.5m)北壁冬期第3登(シュミット・ルート第2登)、をはじめ1983年エベレスト(8848m)無酸素登頂までの間、冬期グランドジョラス北壁など合計8座の困難な冬期登攀を果たしている。

1959年頃だったろうか、当時の谷川岳は山学同志会や東京の緑山岳会が入っていると余りにも大勢でくるので今日は登れないと一ノ倉沢に入るのを諦めたことがあった。同志会の集団を遠くから眺め「あれが同志会代表の齊藤さんだ」と先輩にいわれてもぴんとこなかったが、そのころから名前だけは知っていた。

私は国体の山岳競技にかかわるようになり、群馬であかぎ国体の準備をはじめていたが東京に転勤になった。当時国体委員長は瀧島清さん。瀧島さんに乞われて国体委員会に顔を出すようになって齊藤さんを知る。齊藤さんが東京都山岳連盟会長に就かれたのが1980(昭和55)年。以来、都岳連のほか日山協でも副会長として敏腕を振るう。くにびき国体(1982年)が終わった翌月には、日山協で初めての機関誌『登山年報』を創刊、1988年まで発行。六甲百丈岩で、ロシア、韓国、日本の選手を招いての競技会。結果は、1位がロシア3分台、2位韓国が5分台、日本人選手はみな10分台であった。この時、スピードを競うフリークライミングの時代の到来を予感したという。時代は変わる。見えない競技から見える競技に、これが岩登り競技にも影響し、人工岩場の構築が求められるようになっていた。1990年とびうめ国体では初めて人工岩場で競技。この頃よく東郷神社近くの私の宿舎に立ち寄られた。

1991年齊藤会長に変わり、10月17日～20日の間、東京代々木競技場の屋外にクライミングボードを設置してスポーツクライミング・ワールドカップを開催した。この時の苦労話。開催資金に窮して自ら拠出したが、役員たちはいくら出したか知らない。私たちは登山は無償の行為だと思ってきたが、フリークライミング関係者には通じない。選手の中には世界の大会を股にかけ賞金が楽しみな人も多だろう。フリークライミングは登山ではない。人工壁をセットして空身で一定時間内にどこまで登れるか、である。しかし、国体は人工壁を使ったこの岩登り競争でなんとか維持しているで

はないか。私が思いきって導入したのは時代を先取りすることではなく、近い将来オリンピック種目にとりあげられると予測したからであった、と。その年の中日新聞(12月7日)には「五輪にスポーツ・クライミングを」「日本山岳協会会長が記者会見」の見出しで「日本山岳協会の齊藤一男会長は6日、長野県松本市役所で記者会見し、1998年の長野冬季五輪の競技種目にスポーツ・クライミングを採用してもらうよう日本オリンピック委員会や長野県の関係機関に働きかける方針を明らかにした」とある。今日あることをすでに予測していたのである。



齊藤さんは2003年3月、日本山岳文化学会を設立する。前年の秋、ある岳友の告別式に参列するとき、偶然電車内で齊藤さんと一緒になり「設立趣意書」の原稿を見せられた。たいそうな計画である。私は一瞬たじろぎとても私の及ぶ世界ではないと思った。ところが例の話術でいつの間にか引き込まれ以来おつきあいが続いてきたがついにお別れのときがきた。

私は齊藤さんに呼ばれてときどき自宅に伺った。齊藤さんが著した書籍は『日本のアルピニズム』(朋文堂)『岩と人—日本岩壁登攀史』(東京新聞社)『谷川岳・越後三山』(山と溪谷社)『山を読む』(アテネ書房)『山の文化とともに』(アテネ書房)『日本の名山を考える』(アテネ書房)『登山史展望』(日本山岳文化学会)『北の雷鳴』上・下(岩峰社)『幕末三国志』(論創社)『山その日この人』上・下(論創社)など。著作は山岳会や雑誌への投稿を含め、私の知る限り450数本に及ぶ。最後にお会いしたのが2月5日。今日は体調がよいということで午後自宅に伺った。そのとき「明治以来の山を中心とした行為、精神はどこへいった。もう一回やり直せ。上調子ではできない」と教えを受けた。昨年暮れに白内障の手術をし、「さあこれから」といって数人の有志を集めて「山下村塾」なる勉強会を立ち上げ2回開いたがこれも果たせなかった。勉強するようにと沢山の書籍もいただいた。さぞ心残りであったと思う。

齊藤さんのお手伝いをして『山その日この人』や『東西の接点 鹿島槍に挑んだ人たち』などの原稿をタイプしたが、文字はまことに読みやすく、また原稿を書く早さにも驚いた。『山の文学散歩』のあとがきに書いたが、齊藤さんの博識、記憶力、回転の速さに驚くとともにこの知力の源は努力だけではなく、脳構造の違いにもあるように感じていた。

「この世に永劫不滅はないのだから」といい、私の菩提寺は谷中のそばの「修性寺」だと、安川茂雄の追悼文に書いている(安川の墓は近くの安立寺)。高台で昔は富士山が見えたという。正に富士山よりも大きな巨星日本山岳界の最長老が墜ちた。今までの計り知れないご訓導に心から感謝しご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

「写真集 聖山 永遠のシャングリラ」

渡辺千昭 著

渡辺氏の写真集を手にするのはこれで2度目である。最初は「シャングリラ 東チベットへの仙境へ」(2003年東京新聞出版局、)そして今回が「聖山 永遠のシャングリラ」(2017年日本カメラ社)である。今回は四半世紀の間、撮り続けて来た集大成である。シャングリラ(Shangri-La)の語源は、ご存知の方もいると思うが、ジェームズ・ヒルトンの小説「失われた地平線」に出てくる理想郷(ユートピア)の名称であり、転じて小説の発行された1930年代後半以後、ヒマラヤ奥地のミステリアスな永遠の楽園、外界から隔絶された地上の楽園というような語と同義になった。とりわけ中国は雲南省、四川省、チベット自治区辺りにこの名称を与えている。従って氏の写真集はこの辺りを中心にしたものであるが、それに留まっではない。前作もそうであるが、山を含む大自然を中心に花や人にも焦点が当てられている。氏はあとがきにも「この地域が『発展』と引き換えに『俗世の外の桃源郷』とされる鮮度が失われていく寂しさを改めて実感した、しかしこの大陸は、広大で奥深い。俗世間を外れた仙境には、まだまだ私の知らない桃源郷が存在している、と信じたい」と書いている。確かに前作において人間は青年が生き生きと中心に表現され、今回は子供と老人が中心に撮られている。俗世の

鮮度の移り変わり、ということであろうか。しかし、大自然に関しては以前より地域も広く、見るものを圧倒するように、ダイナミックに表現されている。例えば、冒頭数ページの山群や「夜空とミニヤコンカ山群」、趣を変えて、生活に密着した「夜明け前の棚田」さらにこの土地の信仰の厚さを物語る「ドルマ・ラ峠を五体投地で巡礼する信者」など、10数年の間に多くの箇所を歩き回ったこともあると思われるが、それ以上に桃源郷であるこの土地に愛着を持ったものと思われてならない。



さて、話が前後したが、この書の序文は中村保氏が書いておられる。ご承知の通り、この地における、押も押されぬ第一人者であり、探検家でもある。下手な書評より、この写真集において表現されている意味を的確に解説しておられるので、購入して読んでいただければ幸いである。また烏理烏沙(ウリウサ)氏が現地取材に同行、花の名前でも協力したという。彼もこの地における写真を展示したり、後世に残る作品を紹介している一人である。

写真集 聖山 永遠のシャングリラ

著者 渡辺千昭

発行 株式会社日本カメラ社 2017年2月20日

サイズ 25×26 cm / 131頁

定価 4,500円 + 税

(横断山脈研究会会員 小野寺育)



平成28年度(29年2月)
常務理事会報告

日時 平成29年2月2日(木)

18時00分～21時00分

場所 岸記念体育会館・504会議室

出席者 八木原会長、尾形・高橋・亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京オ、瀧本、中瀬、各常務理事、中島監事

委任：國松副会長、水島、仙石常務理事 以上 14名

1. 議事

(1)平成28年度1月常務理事会議事録の承認について(事前送付済) 異議なく承認された。

(2)新法人名称のロゴについて

ロゴ案は従前のままで名称をバランスよく変更することに決定した。

(3)全国理事長会議次第と報告事項について

追加、変更が提案され、承認された。

(4)会長・副会長選考委員委嘱について

29,30年度の会長・副会長の候補者推薦について、「会長・副会長推薦委員会運営細則」に則り、現会長が推薦委員会の委員を委嘱することで承認された。

(5)第4回理事会次第について

一部議案の追加で承認。

(6)一般財団法人自然公園財団への理事派遣について

亀山副会長を派遣することで承認。

(7)海外登山奨励金付与登山隊選考結果

異議なく承認された。

(8)山岳スキー世界選手権派遣について

提案通り、異議なく承認された。

(9)UIAAユースアイスクライミングキャンプ参加について

提案通り、林健太朗の参加が承認。

(10)環境省自然公園指導員表彰候補者の推薦について

千葉岳連の関口薫氏、北海道岳連の明田通世氏を推薦することで承認。

(11)ボルダリング日本代表選手の承認について

異議なく承認された。

2. 報告事項

(1)平成28年度12月・月次決算報告

(2)トップアスリートの就職支援について

(3)JOC認定・競技別強化センター設置事業
既存の施設をJOC認定にしてほしいリクエストがあれば受け付けるとのこと。

(4)Tokyo 2020に向けてオーストラリアNOCからNFパートナーシップについて

(5)埼玉県防災航空隊の緊急運航業務に関する条例の一部を改正する条例(骨子案)

(6)オリンピック強化戦力プラン、協働チームの設置について

(7)福井国体プレ国体誓約書

(8)JSC情報の収集と基礎調査

(9)AvSAR

前回以降の経過について報告。AvSAR委員会からAvSAR協議会にする。入会金は徴収せず会費のみにする。会計監事等に関しては協議途中である。代表は日本山岳ガイド協会の予定。

(10)一般登山者の教育

モンベルに協力を依頼した。快く引き受けてくれた。

(11)パラクライミング日本選手権2017について

3. 指導員・審判員 検定結果報告

1月16日指導委員会にて認定

(1) S C 上級指導員(宮崎)

日程：10/22～10/24

(宮崎)一宮紀彦、黒木浩紀、兼城尚子、尾崎大祐、竹村逸平、金丸幸博

(熊本)松井清明、松永美穂

(鹿児島)藤山明彦、以上9名合格

(2) S C 指導員(北海道)

日程：9/3～4、11/26～/27

(北海道)杉浦良文、橋本一郎、野川理尚、大橋朗、斎藤文寛、阿部翔生、加藤陽子、渡部具隆、阿部祥一、栗田秀信、稲村雄太 以上11名合格

(3) S C 指導員(東京)

日程：12/3～4、12/10～11

(東京)羽鎌田直人、福田晴子、武田尚子、名倉佳代子、河地尚志、佐川亨子、小林由人、務台美樹、水村信二、(埼玉)浅井輝宗

(山梨)渡辺真二郎、遠藤拓真、安田あとり、佐藤司

(千葉)百瀬恭平

(滋賀)杉山将崇 以上16名合格

上記については異議なく承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

(1)都岳連「ドローンによる山岳遭難捜索技術啓発・普及活動に関する講習会」後援名義

(2)日本山岳ガイド協会「百万人の山と自然、安全のための知識と技術公開講座」後援名義報告

(3)第9回東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース後援依頼

上記については異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

1月(1月10日～1月31日)

【報告】

(1)ジュニア・普及委員会

1月20日(金) 出席者：4名、委任1名

ア)ジュニア・普及情報交換会について

・2/11(土)14時～17時 国立オリンピック記念青少年総合センター

・講演：小澤紀美子氏、安藤氏(愛知)、大西氏(長野)、久保田(日本山岳遺産基金)、西内(ジュニア登山教室について)

イ)なすかし雪遊び隊2017について

ウ)中高年安全登山指導者講習会連絡会議報告(仙石)

・平成29年度中高年安全登山指導者講習会の件(東部：静岡、西部：山口)

エ)ジュニア登山教室 in 立山について

・8/17～20 仮予約

(2)国際委員会

1月10日(火) 出席9名、委任2名

ア)報告事項

・BMC夏クライミング・ミーティング 倉上慶大氏、増本さやか氏を派遣

・海外登山奨励金の後期分申請 ニルギリ・パルバット(高柳傑)、K7(横山勝丘)、キリマンジャロ(福室まなみ)、シスパーレ(平出和也)の4隊応募が

あり、ニルギリ・パルバットは中止のため、結果3隊。16日に選考会開催予定。

・キルギス MountainSpirit2017 6月～8月 レーニン峰とアクサイ氷河でのクライミングの計4人。公募予定。

・谷口けい冒険基金について(日山後援名義)

イ)協議事項

①平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会について

②WCM参加者へのアンケートについて

③国内外に向けてのHP案について

(3)自然保護委員会

1月14日(土) アルカディア市ヶ谷

12名出席 4名委任

ア)議事報告

平成28年12月度 自然保護常任委員会議事報告

トイレゴミ持ち帰りパンフレット

長野シカ問題について

イ)報告

①キルギス山岳協会 丹沢鍋割山・環境配慮型公衆トイレ調査

②キルギス山岳協会 環境配慮型公衆トイレ打ち合わせ 港区生涯学習センター

③山岳団体自然環境連絡会

12月26日(廣田、堀江、松隈)

・3月11日のシカセミナー「山の自然が崩壊する～深刻化するニホンジカ被害」開催の件

・新年度から会則制定：会費5,000円(1団体あたり)、団体1票

ウ)審議

①平成29年度事業計画について

②携帯トイレ・トイレゴミ持ち帰りの普及推進について

③自然保護指導員のウェアやグッズについて

組織名称に伴い、腕章をバッジに移行するなど検討(用品を①指導員の手引き、②登録証、③バッジ)

④自然保護委員会プロジェクトについて

・自然保護指導員養成テキストについて

・「山の神」調査について(現況のアンケート調査)

⑤出前講座の実施について(調整要)

エ)情報交換・連絡事項

①山岳団体自然環境連絡会

1月30日 労山事務所会議室にて

②長山協会のセミナー

2月5日 あがたの森文化会館(松本)

ライチョウサポータ活動についてなど

③東京都環境局パブリックコメント募集(第5期第2種シカ管理計画に対する意見)1月17日まで

(4)指導委員会

1月16日(月) 岸記念体育会館

14名出席、2名委任

ア)夏山リーダー検討会について

イ)指導者制度改定

平成30年度より日体協の指導者制度(名称、内容)が大幅に改正される。

ウ)第2期スポーツ基本計画の策定

ア

ンケート

エ)スポーツ指導者専門科目修了認定申請(2/2常務理事会で承認予定)

①S C 指導員(山口)中国ブロック合同/中央開催

日程：10/29～30、11/19～20

(愛媛)青木亮二、(広島)延近昌彦、中野恵美(鳥取)福田宗次郎、(山口)川原喜代美、山縣茜、岩本亮太、折笠浩人、谷厚志、(島根)佐藤雄一郎、片山尚達、(岡山)野村康寿、的場章良
※得点表がまだ、なので、2月6日の指導委員会で審議となる。

②S C 指導員(宮崎)

日程：10/22～10/24(12名中9名が合格)

(宮崎)一宮紀彦、黒木浩紀、兼城尚子、尾崎大祐、竹村逸平、金丸幸博、(熊本)松井清明、松永美穂、(鹿児島)藤山明彦 以上9名合格

③S C 指導員(北海道)

日程：9/3～4、11/26～/27

(北海道)杉浦良文、橋本一郎、野川理尚、大橋朗、斎藤文寛、阿部翔生、加藤陽子、渡部具隆、阿部祥一、栗田秀信、稲村雄太 以上11名合格

④S C 指導員(東京)

日程：12/3～4、12/10～11

(東京)羽鎌田直人、福田晴子、武田尚子、名倉佳代子、河地尚志、佐川亨子、小林由人、務台美樹、水村信二、(埼玉)浅井輝宗、(山梨)渡辺真二郎、遠藤拓真、安田あとり、佐藤司

(千葉)百瀬恭平、(滋賀)杉山将崇 以上16名合格

⑤S C 指導員(富山)

22名分の受講者名簿とクライミング履歴書送られてきたが、書類が不十分なので次回の審議とする。

オ)主任検定員認定

①ブロック別研修会

競技部のブロック別研修会においても、主任検定員養成講習会を実施する。

②登攀技術研修会

登攀技術研修会開催時に山岳の主任検定員養成講習会を開催するが、S Cについても、理論のみ同時に主任検定員養成講習会(理論のみ)を実施してはどうか。

カ)冬期指導者研修

2月11日(土) 10:00から都岳連事務所にてA Cの検定基準会議を行う。
参加者：瀧本、蛭田、工藤、本郷、石原、(野村)

2月12日(日)10:00から都岳連事務所にてS Cの検定基準会議を行う。

参加者：蛭田、井納、羽鎌田、藤江、廣川厚、篠崎

キ)大山氷雪技術研修(2/18～19)

鳥取岳連で2/18～19で大山館予約済。予定講師：瀧本、堤、切嶋、原、地元の指導者

(5)競技部競技運営委員会

1月13日(金) 岸記念体育会館

出席17名、委任4名

1) 2017年度競技部委員総会について
4/2(日)岸記念体育会館(予定)
イ) 報告事項

- (1) JMA定款改正に伴う国体競技名称・日体協国体課へ要望書提出(1/6)
- (2) 第73回福井国体以降のリハーサル大会について
- ・福井県池田町からの質問書への回答
- (3) ブロック別研修会開催準備状況
- (4) 国体後催催の準備状況

6. その他の重要事項

1月2日～2月2日

- (1) ユース強化合宿
1月2日(月)～10日(火) 於：フランス
小日向選手強化委員長他
- (2) アマチュアスポーツ新春懇談会
1月11日(水) 於：NHKホール
八木原会長、尾形副会長
- (3) 国立登山研究所専門調査委員会
1月12日(木) 於：JSC会議室
尾形副会長
- (4) テレビ朝日ビッグスポーツ賞表彰式

- 1月13日(金) 於：プリンスパークタワー 八木原会長、尾形副会長
- (5) 新春参与会 1月14日(土)10時30分～12時 於：アルカディア市ヶ谷 八木原会長 尾形副会長、高橋副会長、亀山副会長
- (6) 2019年新春懇談会
1月14日(土) 13時～15時 於：アルカディア市ヶ谷 八木原会長 他
- (7) 平成29年度中高年安全登山指導者講習会・引き継ぎ会議 1月15日(日) 於：アルカディア市ヶ谷 尾形副会長、仙石常務理事
- (8) (一財) 全国山の日協議会運営委員会・理事会 1月17日(火) 於：四谷健保センター 尾形副会長
- (9) 船村徹氏叙勲を祝う会 1月18日(水) 於：グラントプリンス新高輪 八木原会長
- (10) 日本スポーツ賞・表彰式 1月19日 於：パレスホテル東京 尾形副会長、小野寺常務理事
- (11) マムートスポーツグループジャパン創

- 立10周年記念祝賀会 1月24日(火) 於：ビューリック浅草橋 尾形副会長、森下常務理事
- (12) 日体協評議員連合会幹事会 1月25日(水) 於：岸記念体育会館 尾形副会長
- (13) 都岳連新春懇談会 1月28日(土) 於：ホテルJALシティ田町 八木原会長
- (14) 第12回ボルダリングジャパンカップ 1月28日～29日 於：代々木第二体育館 八木原会長、尾形副会長、森下常務理事、他
- (15) JOC外務省スポーツ外交推進事業実施説明会 1月30日(月) 於：岸記念体育会館 尾形副会長、小野寺事務局長
- (16) 全国山岳遭難対策協議会幹事会 1月31日 於：スポーツ庁 西内登山部長
- (17) 西条市長表敬来局 2月2日(休) 於：岸記念体育会館 八木原会長、尾形副会長、小野寺事務局長

寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	「新編 浦山の博物誌」著：三宅 修
	(株)山と溪谷社	「追憶の山々」著：佐伯 邦夫
	(株)山と溪谷社	「紀行とエッセーで読む 作家の山旅」編：山と溪谷社
	(株)山と溪谷社	「若き日の山」著：串田 孫一
	(株)山と溪谷社	「アドベンチャーレースに生きる！」著：田中 陽希・田中 正人
雑誌	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.983
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.837
会報	HAT-J	「HAT-J」No.104
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第328号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2017年1月30日号
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.275
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.466
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.2
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第421号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.503
	FEEC	「VERTEX」269
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第109号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.329
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第56号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2017年3月 No.505
	korean Alpin Federation	「大山聯」Vol. 218
	中国登山協会	「山野」2017年2月 総222期
	東京野歩路会	「山嶺」No.1044
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2017年2月20日号
	(株)ピーオーピー	「Event Biz」Vol.6
	(公社)日本山岳会	「山」No.861
	福岡山の會	「せふり」No.379
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》257
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.687



超肌着力
想像をはるかに超える“保温力”

編集後記

皆さんが楽しみにしている連載「Mountain World」が100回を数えた。これだけ長きに亘って毎月、世界の登山界ニュースを届けて頂いている池田常道氏に改めて深甚より感謝申し上げます。(前号で98回と記載しましたが、99回の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。) (広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会
神奈川県事務局
 〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL. 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本 憲 昭

登山月報 第576号

定 価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年3月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会

電 話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
8,160円 (+税) → **7,480円** (+税)
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円
1冊分無料

年間購読特典

岳人オリジナル
コンパクトフォームパッド

年間購読を
お申し込みの
みなさまに
プレゼント!



使用サイズ
33×26×0.8cm



特集 日本百名山と深田久弥

4月号
3/15発売

「岳人」2017年4月号

特集 日本百名山と深田久弥

本体価格 680円 (+税)

【好評連載】石川直樹「アジアの山に生きる」
／竹田津実「オホーツクの村物語」ほか

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

初めて、
という不安。

ここから始まる、
という希望。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよぐ。三井住友海上

www.ms-ins.com

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



守ります。美しい日本の山。

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日本山岳協会 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト
(www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)